

組織化へのIT基盤整備

中小企業IT経営力大賞2013・ITコーディネータ協会会長賞受賞  
**トップを走り続ける技術と組織力を！**  
**生産性向上を支えた基幹業務システム**

千葉県松戸市・歯科技工業 ● 協和デンタル・ラボラトリーの場合

白衣を着た技工士の手元に見えるのは「歯」だ。千葉県松戸市の協和デンタル・ラボラトリーは、インプラント専門の人工歯を造る歯科技工所である。高度な技術が求められる人工歯を歯科医院の依頼を受け一つずつ製作する。

同社は学会での発表などを積極的に技術面での信頼を高める一方、個人事業が多い業界にあって組織的な経営を行っている点でも注目を浴びる。



代表取締役社長 木村健二氏

**徹底した人材育成  
市場縮小でも売上上昇**

「眼と頭と手が一致して技能が身につくまで、3年はかかります」  
 木村健二社長は歯科技工士の仕

わりに人工歯根を埋め込み人工の歯を取り付ける歯科治療方法の一つ。入れ歯より「自分の歯」の感覚に近く、他の歯への負担が少ない。健康保険が適用されない治療法ながら、人気が高まった。一時、ブームで需要は大きく伸びたが、現在はピーク時の3分の2程度に落ち着いている。こうした市場環境にも関わらず、同社は売上を着実に伸ばしてきた。今年度は3年前に比較して約20%の上昇である。

要因はどこにあるのだろうか。

事についてこのように語る。同社の強みである技術力の向上には十分な時間を割いているという。さらに、業界でも早い時期にCAD/CAMを導入。高耐久性で仕上がりが美しい素材「ジルコニア・セラミックス」による人工歯の製作など、先端技術を取り入れており、高度治療を行う全国の歯科医院からの信頼を獲得している。2010年ころからは、引き合いが増え仕事の増大に現場が追い付かない状況になってきた。

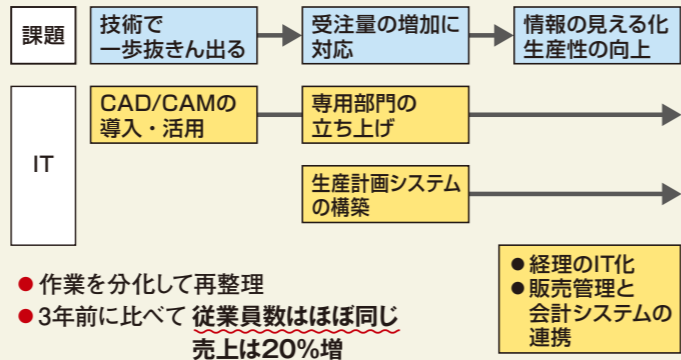
会社概要

**有限会社 協和デンタル・ラボラトリー**  
 千葉県松戸市新松戸3丁目260-1  
 ●設立：1987年（創業1984年）  
 ●従業員数：47名  
 ●事業内容：歯科技工業  
 ●URL：http://www.kyowa-dental.co.jp/

人工歯の製造現場。技工士の技術習得には3年近くかかる。CADの導入により、幅広い受注が可能になった。



協和デンタル・ラボラトリーのIT経営ステップ



生産計画システムを進めてきたプロジェクトメンバー。画面に映っているのは米国に居住しながらリモートアクセスで生産計画の業務を行っている上嶋瀬氏（スカイプの画像）写真前列左から、浅野氏 加藤氏 三輪常務（プロジェクト責任者）後列左、松井氏



会計業務のIT化、販売管理の精度アップ、販売管理と会計の連携などを実現し、生産性の向上や経営数値の見える化に貢献した事務部門のメンバー 事務長 木村千枝子氏（写真左） 副事務長 宮下恭子氏（右）

の取り組みが動き出した。次に焦点を当てたのは事務部門の業務改革である。「良いものを作れば儲かるだろう」と思ってたんですけど、事務部門は手作業中心。製造に気を取られてコンピューターに任せるべきところを任せていなかったのです」と木村社長は振り返る。販売管理システムは入れていたものの会計は手書きの帳簿を会計事務所に渡していたという。そこで鬼澤氏は、事務部門の業務フロー作成を提案した。事務長の木村千枝子氏と副事務長の宮下恭子氏を中心に内容を洗い出して業務を整理した。その結果、二重作業を防ぐよう販売管理システムのデータ精度を上げ、会計システムと連動する方式を選ぶことにした。木村事務長は「余分なことに時間をかけていたのがよくわかり、

○サポーター紹介



ITコーディネータ 鬼澤健八氏  
 おにざわIT経営オフィス 一般社団法人 千葉IT経営センター理事  
 http://www.itkeiei.or.jp/

千葉県を中心に活動するITコーディネータ。支援企業は毎年のように中小企業IT経営力大賞に入賞・認定されている。中小企業のIT経営に関して基幹システムの導入からWeb活用まで様々なテーマに対応。協和デンタル・ラボラトリーとは生産計画システムの導入が縁で支援を開始。その後も公益財団法人千葉県産業振興センターの「フロンティア企業支援事業」を活用し、月に1、2回訪問している。鬼澤氏の支援は、経営者や現場担当者の話を徹底的に聞き、現場が納得して主体的に改革に関われるようサポートするところに特徴がある。副事務長の宮下氏は、「マスターデータの作成など大変な時期もありましたが、理由がわかっているのでもやり遂げることができました。「次はここまで」とベースを作っていただけでも良かった」と笑顔で話す。また、木村社長は「IT活用は漠然とは考えていたものの、素人が頭で考えているだけでは前に進まないものです。そこを明確にし背中を押してくれました」と振り返る。経営者の頭の中を整理し、IT戦略の実行へと静かにナビゲートする。ITコーディネータの真骨頂である。

「前月の業績がすぐにはわかるようになったので、各チームリーダーは製造方法の工夫など改善を進めてくれるようになりました」と木村社長は説明する。実績の見える化により、現場が

製造プロセスを経営的な視点でも見直せるようになったのだ。同社をサポートしてきた鬼澤氏は、「従業員の皆さんの意識や意欲がとても高い。どんどん改善提案が出てくるのでこちらが追い付かないくらいです」と笑顔で語る。ITの活用は人でなければできない作業を際立たせ、また、人の新しい力を引き出しているのである。「これで良いとは思わず仕組みづくりを続けていきたい。どんな環境になっても時代をリードできる組織が作れば、いずれ経営のバトンタッチもできるでしょう」と協和デンタル・ラボラトリーが目指す組織は、変化を越えて生き続けられる自律的な技能集団である。

